



「つながる思い まちの絆」

ふるさとだより

2012年

11

月号
No.18

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

久之浜・大久

久之浜・大久復興祭第2回奉奠祭開催
復興へ向けた動き

四倉

津波に負けずに事業再開へ～本多商事～
新コーナー 道の駅通信

平

薄磯で300年前の石塔発見
豊間サンライズメンバー募集

小名浜

復興への願いを込め、ふるさとを描く 斎藤さん
子どもたちが一丸となって臨んだ学習発表会

勿来

地域全体で防災対策「勿来駅前自治会」
外国人学生が被災地を訪問

[写真背景]寒さにも負けず海岸の岸壁などにたくましく咲くハマギク(塩屋埼灯台付近)



雨で1日順延となった久之浜第一幼稚園と平第一幼稚園の合同運動会。10月8日、晴れ渡る青空の下行われた運動会のオープニングを飾ったのが、年長さんくら組による鼓隊パレード。かけっこ、組み体操やお遊戯など2年ぶりの運動会を楽しんでいました。



日本の伝統的な秋の風物詩、七五三。江名諏訪神社には子どもの健やかな成長と長寿を願い、たくさんの親子連れが参拝に訪れました。華やかな袴や着物を纏い、子どもたちは少し緊張した様子で祈祷を受けていました。



色鮮やかな大漁旗をバックに、照明を落とした会場に映える赤い法被を着て、元気な踊りを披露した大浦小学校の2年生。学習発表会での1コマです。全校児童がこの日のために一生懸命練習を重ねてきました。劇、合奏、運動、ダンス。種目は違っても、クラスメートと力を合わせて演じきった児童たちは、みんな100点満点の笑顔でした。

鎮魂と復興への誓いを胸に

復興祭 奉奠祭花火大会の開催

ほうてん



会場には交流のある石川町をはじめ、様々なブースが並び特産品や食べ物など、訪れた約10,000人が楽しみました。

10月20日、先の震災で亡くなられた方の鎮魂と久之浜・大久地区の復興を願う「久之浜・大久復興祭 第2回奉奠祭花火大会」が開催されました。会場となつた久之浜地内に、市内外から約1万人が訪れ賑わいを見せました。

朝7時、実行委員会のみなさんや久之浜・大久地区復興支援チーム(ゆげんチム)のメンバーらが集まり、テントの設営が始まりました。そして以前から交流のある石川町をはじめ、静岡県三島市の「復興と地域防災を考える会」、「FKP(Fukushima Kizuna Project)」、東京デザイン学院の講師学生による「久之浜大久地区まちづくりサポートチーム」など、多くの方が久之浜に顔を揃えました。



開会宣言をする吉原二六実行委員長(右上)。久之浜一小5年、根本裕斗君が「久之浜に元の笑顔が戻るよう、みんなで頑張りましょう」と決意表明

久之浜中学校吹奏楽部の演奏で第一部久之浜・大久復興祭が開幕。「北いわき再生発展プロジェクトチーム」の高木優美代表が開会の挨拶。そして、久之浜に縁のある出演者、久之浜の出身の歌手・岬花江さん、「海神乱舞」による歌や演舞が披露されました。

多くの支援者来場者を迎える祭りがスタート

り、およそ1時間、約2,000発の花火が秋の夜空を焦りました。



秋の夜空に2,000発の鎮魂の花火が打ち上りました

町全体で盛り上げた祭りが終わって

花火大会終了後、家路を急ぐ人、後片付けを始める人々々に花火と和太鼓の競演を「素晴らしい」、「良かった」と興奮気味の様子。「昨年の花火は何もない地上を照らして切なくて切なくて泣けてきたけど、今年は『すごいねえ、きれいだねえ』って言えた。気持ちも前向きになつているんだなって思えるね」と久之浜町後の自宅を津波で流された方が話してくれました。

そして翌朝、実行委員と結ぶくなつた午後6時、第二部第二回奉奠祭花火大会が始まりました。主催者を代表して、吉原二六実行委員長が「今日を契機に、久之浜・大久地区の復興を達成したい」と力強く開会宣言。「黒潮流みつもり太鼓」の演奏に合わせ花火が打ち上りが

稲作グループの試み

安全でおいしい米を届けたい

3月11日の地震とその後の原発事故により多くの農家が稲作を断念した昨年。そして今年、米作りに向けて様々な試みが続けられてきました。佐藤三栄さんら8名の稲作農家のみなさんによる「安全な米研究会」の取り組みもその一つです。

作付けする水田の放射線量

を計測し、放射性物質濃度の高い水田では、注水・攪拌・代播きを繰り返しての除染。田起しや田植えの前後にはゼオライトを散布。そして引き込む水や排水の管理も徹底して行いました。田植えが終了した後も、稻穂へのセシウム移行の有無を検査。出穂後も稻穂などの放射性物質検査を(株)東北イノベーターが行つてきました。

そして、迎えた実りの秋。県

内で生産された米の全量全袋検査が義務付けられ、10月3日、検査場に30kg袋105個の玄米が持ち込まれ、1袋ずつ検査が行われました。「毎日食べる米だから、安心・安全のため検査も必要。結果が良くて『安心』とメンバーの飯島助義さん。



県内で生産された米や自家消費米まで、すべての米が放射線濃度検査を受けます

区長に聞く

小久区長
飯島香織さん



小久地区は140戸。が区長を務める小久の8割が農業を営んでいます。区長として今は放射能問題が真っ先に頭に浮かびます。除染に向けた同意書の取り扱いが見られました。前夜の賑わいから一転、久之浜町内に静けさが訪れた日曜日の朝でした。

小久地区は140戸。が区長を務める小久のボランティアたちが前日に引き続きごみ拾いを行う姿が見られました。前夜の賑わいから一転、久之浜町内に静けさが訪れた日曜日の朝でした。



久之浜・大久の みなさんへ

久之浜第一幼稚園
園長 青木孝子さん

昭和52年に幼稚園の先生となって以来35年間久之浜第一幼稚園一筋です。保護者の方、町の方に励まされ支えられ、私自身も育てられたと思っています。地域とのつながりが強くて、保護者の方と先生との距離の近い幼稚園ですね。

先日の花火大会で多くの懐かしい顔に出会いました。声をかけたりかけられたり、立ち止まっては話して、歩いては立ち止まって話しての繰り返し。100m進むのに1時間以上かかりました。多くの方と話ができる本当にうれしかったですね。

「幼稚園はいつ久之浜にもどってくるの?」と話をした多くの方からたずねられました。一日でも早く再建したいとは思いますが、今の環境と状況を考えると難しい問題もあります。久之浜には、公立の久之浜保育所もありますので、発展的解消をして、幼保一体の新しい「こども園」ができるよう、市の復興計画の中で実現できればいいのかなあと思っています。

第一応急仮設住宅での住民アンケートの実施と計5回の災害公演を実施しました。具体的な提案として、十分な駐車場の確保、子育て世代から高齢者まで利用できるコミニティーセンターの設置など、意見を取り入れた災害公演を市へ提出することが決定されました。

久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成24年10月30日
 - 天候:晴れ
 - 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
安全専門部会
 - 測定器:日立アロカメディカル製
TCC-173(ヒューリック社製)

測定ポイント	地上 1cm	地上 100cm
田之網(田之網集会所)	0.13	0.16
南町(旧道沿い中央部)	0.17	0.13
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.10	0.09
北町(久之浜駅前)	0.19	0.18
東町(旧久之浜漁協前)	0.10	0.10
西町1区(西町公園付近)	0.22	0.18
西町2区(久之浜第一小正門付近)	0.30	0.28
金ヶ沢(鹿野付近)	0.23	0.26
末続(末続駅前)	0.24	0.22
大久(大久公民館付近)	0.28	0.24
筒木原(久之浜第二小西門付近)	0.19	0.26
小久(町田橋付近)	0.19	0.20
小山田(小山田集会所付近)	0.23	0.21

※(株)東北イノベーターのHP
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で
より詳しい放射線情報を監いたらだけます

復興へ向けた動き

久之浜における都市計画の決定を受けて、久之浜・大久地区復興対策協議会役員会において説明会が開かれました。主な項目は左記の通りです。

◇都市計画道路整備事業
久之浜地区を南北に貫く

久之浜地区を南北に貫く旧国道・賤川田線国道から支所南側を通る駅前中町線の2路線の拡張整備及びJR駅前から漁港への久之浜港線の橋梁架け替えと歩道整備を伴う整備計画が示されました。来年度から用地買収を進め平成27年度の完成をめざします。

除染説明会

市の除染実施計画において優先的除染地区に指定された久之浜・大久地区で全戸対象にした除染作業が始まります。

10月8日、末続での説明会を皮切りに、金ヶ沢、大久と筒木原、小山田、西町1区2区、東町と北町、中町と南町、小久、そして10月14日の田之網での説明会まで、全ての地区を対象に計9回の除染

市の除染実施計画において優先的除染地区に指定された久之浜・大久地区で全戸対象にした除染作業が始まります。

量測定地点を定めモニタリングを開始。一軒一軒相談をしながら除染を進め、来年3月までの久浜・大久地区全ての生活圏における除染完了をめざします。

災害公営住宅ワークショップ

説明会が開催され、計約500名が出席しました。説明会では、最初に除染モデル事業の実施結果の説明。続いて除染の概要、除染実施方法、除染害施同意書についての説明が行われました。その後質疑応答の時間が設けられ、いずれの会場においても多くの出席者が様々な疑問点をあげ、担当者からの説明を受けました。同意書提出の後、除染受注業者等が各家庭を訪問し、

園児・児童・生徒ら それぞれの久之浜の秋

勉強の秋 学習発表会

2年ぶりの園庭での運動会
園児たちは元気いっぱいで
かけっこやお遊戯を頑張つ
いました。

展示され、多くの人が作品に見入っていました。午後には合唱コンクールが行われ、各クラス息を合わせて歌われた課題曲・自由曲が体育館に響き渡りました。

スポーツの秋
運動会

スポーツの秋 運動会

で「海蜂祭」が開催されました。生徒会活動や吹奏楽部の演奏、総合学習で訪問した市内の高校・大学、職場体験の様子を学年ごとに発表。また、校内には海蜂祭ボスター、コロナフレームの作品が

勉学と芸術の秋
海蜂祭

年小ばら組の園児
も元気にかけっこ。
めざすゴールは大
好きな担任の先生



久二小学校発表会のスローガンは「二年ぶりの晴れの舞台！みんなの心に届くように最後まで精一杯演じよう」

小の学習発表会が両校の体育館で開かれ、保護者、来賓そして地区の方など多くの



新しい設備で商品を製造する従業員のみなさん。工場内には機の香りが漂っていました

四倉町東1丁目の本多商事は、北海道・道東産の原料を使つたとろろ昆布ときざみ昆布を製造して、県内外の小売店で販売しています。

老舗海産物会社を襲つた大津波

創業は70年を超える、本多忠和社長は昭和57年に家業を継いだ三代目です。

昨年3月11日、地震直後に社員を帰宅させ、本多さんは高台に避難。その場所から会社は見えないものの、敷地の前が海だったため、「もう会社はだめだらう」と思ったそうです。数日後、会社に行くと、津波で建物の壁に大きな穴が開き、昆布を煮る釜、乾燥機、切

断機なども全て壊れていました。惨状を目撃した本多さんは、事業の継続は難しいと判断し、昨年3月末で従業員を全員解雇する苦渋の決断をしました。

昆布の可能性を追求 海藻風呂に入れる新商品

「途方に暮れていた私に、通りかかったボランティアのみなさんが声をかけてくれて、がれきや泥の撤去を手伝ってくれるようになつたんです」。

会社の敷地が少しずつ片付けられていく光景を見て、再開できるかもしれませんと感じるようになつたのは、昨秋でした。

その後、助成金を利用するなどして設備を整え、建物を

修繕して今年8月1日に事業

を再開。「震災前の機械と全く同じものではないので、戸惑いもありましたが、昆布を煮ているにおいが釜から漂ってきた時、思わず感極まつてしまいました」。しかし1年半休業していた影響は大きく、震災前の生産規模や売上額まで回復するには、まだ時間がかかりそう。本多さんは販路拡大を目指して、新たに贈答品や土産品向けの商品も考えています。

また食品だけでなく、小さな布袋に乾燥したときざみ昆布を入れた新商品は、岩手県三陸地方のホテルなどで行っている海藻風呂を、家庭の風呂で軽に楽しめるよう工夫した、本多さんの自信作。

発想の転換で新たな昆布の商品化にも挑戦する本多さん

の試みは、始まつたばかりです。



従来の商品にとらわれない発想で、販路拡大を目指す本多忠和社長(右から5番目)

津波被害から事業を再開 新商品で販路拡大を目指す

本多商事

日本体育大学と同大女子短期大学部は、東日本大震災で被災した福島、宮城、岩手の三県でスポーツキャラバンによる支援活動を行っています。10月16日にはいわき市内の小中学校6校で開催。大浦小学校にはダンス部顧問の笠井里津子准教授と27名の部員らが訪れ、225名の児童を前にEXILEの東日本大震災復興支援チャリティー・ソング「Rising Sun」に合わせたダンスを披露しました。

歓声を上げながら華麗なダンスを見学した児童たちは、部員の演技指導で1時間ほど振り付けを練習した後成果を発表。リズミカルな動きに戸惑いながらも一生懸命に体を動かす児童たちの弾けるような笑顔が印象的でした。

ガール」まで、学年ごとに

なる1年生の開幕劇「おうさま、でかけましよう」か

ら、小学校生活の締めくくりとなる6年生の劇「フラ

合奏、ダンスなどを披露し

たほか、上仁井田子どもじ

やんがらを受け継ぐ3年生が息の合った踊り

を発表しました。



日体大生とダンスの練習をする児童たち。講師の先生も驚くほどの上達ぶりでした



地域の伝統芸能である子どもじゅんがらにも大きな拍手が送られていました



あの感動的シーンを再び。最高学年らしく堂々とした演技を披露した6年生たち

日体大が大浦小を訪問 ダンスで親睦深める

学習発表会では 日頃の成果を披露

四倉掲示板

海岸堤防に係る説明会 志津海岸と 仁井田海岸の今後

久之浜・四倉地区の海岸堤防に係る説明会が10月10日、四倉公民館で行われ、集まった住民を前に、県の担当者が事業実施の基本となる都市計画の原案を説明しました。

原案は、市内の海岸堤防の高さを数十年から百数十年の頻度で発生している津波に想定。四倉地区は、四倉漁港の北側にある志津地区海岸約290mについて、現況が海拔3.47m程度だったものを同7.2mまでかさ上げします。

四倉漁港南側の境川から四倉中学校の南約300mの範囲は、今回の都市計画の手続きからは除外していて、11月中旬に地域住民のみなさんと話し合い、了解を得た上で手続きに入る予定です。

除外地域以南の仁井田川河口から原後野川までの仁井田海岸約2.840mは、現況の海拔5.4mを同7.2mにかさ上げをします。

今後、平成24年度に設計と事業説明、同年度から25年度

にかけて用地交渉を行い、志津海岸は25年度中頃から27年度にかけて、仁井田海岸は26年度から27年度で、それぞれ工事を進める予定です。

にかけて用地交渉を行い、志津海岸は25年度中頃から27年度にかけて、仁井田海岸は26年度から27年度で、それぞれ工事を進める予定です。

地区市民文化祭に 力作、自信作が集う



各サークルのコーナーでは、来場者が展示作品を見ながら、熱心に質問する場面も

第39回四倉地区市民文化祭の展示の部が10月20、21日の両日、四倉公民館で開かれ陶芸、絵手紙、絵画、書道などの力作が展示されました。〈特別養護老人ホーム樂寿荘〉が施設の日常風景などを写真で紹介するコーナーも登場したほか、駐車場には模擬店と青空市場がありました。

また館内には四倉保育所、三宝保育園、四倉第一、第三、第四幼稚園の子どもたちや四倉小学校の児童による絵と書きも展示していく、来場者の目を楽しませていました。

11月3日の芸能の部は次号にて紹介します。

月6日、7日の両日、「よつくら元気プロジェクト事業」震災・風評被害になんか負けねえど!「で市内の子どもたち44名を引率して、いわき市と交流を続いている東京都港区など

月6日、7日の両日、「よつくら元気プロジェクト事業」震災・風評被害になんか負けねえど!「で市内の子どもたち44名を引率して、いわき市と交流を続いている東京都港区などを訪問しました。

初日、参加者は港区民祭りに参加して、ねぎ、梨、トマトなどのいわきの特産品の直売を体験して交流を深めたほか、四

芝増上寺に宿泊。二日目は羽田空港やすみだ水族館を見学しました。

子どもたちは直売体験が印象に残ったようで「最初は恥ずかしかつたけれど、どんどんお客様さんが来てくれたので、大きな声で『いらっしゃいませ』と言えました」と話していました。

子どもたちは直売体験が印

象に残ったようで「最初は恥ず

かしかつたけれど、どんどんお

客さんが来てくれたので、大き

な声で『いらっしゃいませ』と言

えました」と話していました。



区民祭りで元気に接客する参加者たち。いわきの特産品はどれも好評でした

子どもたちが港区へ 区民祭りで直売体験



食処くさの根のリニューアルオープン初日には「四倉応援くさの根寄席」が開かれました。来場者は、落語家三遊亭円遊師匠の軽妙な語り口に聞き入っていました。

(10月13日)

四倉点描

(10月21日)



(10月21日)

道の駅の仮店舗だった大型テント内にオープンした屋内遊び場キッズランド。早く家族連れが訪れて、子どもたちが遊具で遊んだり元気に走り回つたりしていました。

道の駅通信

今日も元気に営業中!

魚処 和

一番人気の貝焼き入り海鮮丼(1,500円)は、ウニの貝焼き1個とタイ、マグロ、コハダ、エビなど12種類ほどの魚介がのったボリュームある一品です。積極的にお客さんに声をかけて元気な接客を心がけています。(スタッフの本多栄一さん)

きそば 松の月 道の駅店

新町にお店があった頃から続く、自慢の茶そばを辛めの汁でぜひ味わってください。おすすめはホタテやむきエビなどが入った海鮮かき揚そば(800円・1日20食限定)と鴨南蛮そば(同)です。今後はメニューを少しずつ増やしていきたいですね。(ご主人の佐藤光さん)

薄磯字小塚で 江戸時代の石塔群発掘

残された19軒の隣組

10月17日 地区内に眠っていました。約300年前の石塔群を発掘しました。皆で掘り起こし、自分で基礎工事を行つて再整備しました。

見つかった石塔は「庚申供養塔」2基と「六十六部供養塔」1基、不明なもの2基の合計5基。ほとんどが土の中に埋まつていましたが、存在自体は知られていました。

小塚は薄磯で最も津波の被害が少なく、19軒で新たな隣組を作つて生活しています。昨年は小学校そばの道路沿いに花壇を整備。ハマナスの株を増やし、草刈りや井戸のふたの取り付け



住民の手作業によって発掘され、コンクリートの台座に収まつた4つの石塔。かつてはこのすぐそばを道路が通っていましたが、現在その場所は水路になっています。

よみがえる記憶 石が教えてくれたこと

石塔群が埋まっていたのはこの花壇の数メートル奥。奉仕作業の際、「何が埋まっているか分からぬがちゃんとしたいね」と話が出、長年建設業に携わってきた菅波守夫さん（79歳）が自前の道具を持ち出し、約10名が集まって掘り起こしがスタート。雨の中、夜遅くまで作業しました。コンクリートで幅約5mの台座を作り、石塔群を鎮座させました。

う人が建てたということが読み取れます。いずれも日本各地に見られますが、かつての人々の暮らしぶりが垣間見られる貴重な資料。近所で最高齢の鈴木トヨノさん（86歳）は年配者が「おこもり」をしていましたことを思い出しました。「震災があつたからこそ、昔のものを大事に守っていきたい」と菅波さん。今後、区やお寺と相談しながら供養し大事に祀っていくそうです。



菅波さんら約10名が集まり汗を流して作業しました

スナップ Shot!!



3年生による「ひひは 心のハーモニー」のワーク ショップ



6年生の劇「はだしのゲン」では、命を大切にたくましく生きていくという力強いメッセージを込めました

ふるさと豊間復興協議会 ワークショップ

国土交通省の二
ちづくり担い手事
環。ワークショツ
N P O 美しい街
楽部、ふるさと豊
援グループなどび
ました。延べ約1
参加し、コミュニ
や産業の再生な
まなテーマで意図
合いました。
これを受けて10
豊間公民館で中間
が行われ、住民を
市、県の関係者ら
出席。各回の話し

事業」の一
ブには、
住まい俱
間東京支
か協力し
50名が
ティ再生
とさまざ
児を出し
いツを計の同治(の)里
10月28日、
間報告会
をはじめ
約60名が
合いの結

「産業の再
ついての話」



「産業の再生」をテーマに観光のあり方などについて話し合った10月6日のワークショップ

ふるさと豊間復興協議会(鈴木徳夫会長)は9月1日から計6回にわたって災害公営住宅や新しいまちづくりについて話し合うワークショップを行いました。

豊間小・中学校通信 Vol.7

～安全・安心な学校づくりを目指して～ 市教委と意見交換会

安全・安心な学校運営について意見する参加者

豊間小・中学校の今後について考える、行政と地元住民の意見交換会(市教委主催)が10月9日、25日の両日、豊間公民館で行われました。地元からはPTA役員や各団体の代表ら約20名が出席しました。

25日の会合では安全・安心の確保について市教委が説明しました。小学校は現状の校舎を使い、中学校は小学校西側の山を切り開いて整備するという案をもとに、高台への避難路や工事期間中に使用する暫定的な避難路についても言及。地元からは早期整備を求める声が上がりました。また、震災の教訓を踏まえ備蓄品も拡充し、緊急時に備えていく考えを示しました。次回は11月中に開かれ、広く保護者や住民を招いて説明する予定。

もう一度ソフトボールしようよ!

豊間サンライズ 団員募集



スポート少年団への参加を呼びかける3人

男女不問。他地区からの参加も可。
問い合わせは瀬谷さんまで
☎090-3367-1882

ソフトボールのスポーツ少年団「豊間サンライズ」は活動再開に向けて現在、メンバーを募集しています。

ソフトボール大会でブロック優勝を果たすなど立派な戦績を残しました。

震災前は発足10周年を控え、大会や祝賀会などの記念行事を行う計画もありました。しかし、3月末に6年生9名が卒団すると、人数不足のためやむを得ず活動休止となつてしましました。

保護者が活動再開を呼びかけ、現在は6年生の向川涉君、四年生2年生の瀬谷航平君、四年生太君の3人が在籍しています。まだキヤツチボールしかできませんが、再び試合に出られる日を楽しみに練習に励んでいます。

豊間第一むつみ会 活動再開

豊間の老人会「豊間第一むみ会」(遠藤昌秀会長代行)

と再開を喜びあう声が飛び交いました。

A photograph showing a man in a dark blue suit and tie standing on the left, gesturing with his right hand as if speaking. He is facing a group of approximately ten people seated at long tables in a room with white walls and doors. The people are dressed in casual to semi-formal attire. In the background, there's a blue screen or board. The overall setting appears to be a community hall or a similar meeting place.

5名が選出されました。また、議事では心機一転、新たな会を作つていろいろと名称変更の提案がありました。話し合いの結果、「豊間わかば会」となりました。遠藤会長は「今後定期的に集まつてカラオケや健康体操などを通し交流を深めていきたい」と抱負を語りました。

その他の会員は以下の通り。

▽副会長＝猪狩貞子、遠藤昌秀、△会計＝四家悌子、△監査＝鈴木喜一、青木光雄



いわき病院 秋まつり

国立病院機構いわき病院で
10月6日、秋まつりが行われ、
昨年の復興祭と同様、今年も大
盛況となりました。屋外ステー
ジのほか、健康相談コーナーも
設けられ、来場者は自身の健康
状態を確認しながらイベントを
楽しんでいました。



威勢のいい和太鼓を披露した一打の会

復興への願いを込めて かけがえのない風景を描く

震災前のふるさとの風景を描いた作品展「愛しきものによせて」を9月20日から24日にかけてギャラリー木もれびで開いた小名浜寺廻に住む齋藤弘美さん。復興への願いを込め、一つひとつ作品を仕上げました。

背中を押してくれた ご主人からのプレゼント

齋藤さんがクリーニング店を営んでいたご主人のもとに嫁いだのは昭和45年。店を手伝う傍ら、息子に誘われて石井實絵画教室に入会。デッサンの基礎や油彩画を学び始めました。5年後の昭和63年にいわき市民美術展覧会で初入選し、24年経った現在ではいくつもの展覧会に出演し入賞・入選するほどの腕前になりました。しかし、5年前にご主人が



齋藤さんと震災前的小名浜港の油彩画。「今回の作品が少しでもみなさんの心の癒しになれば」と話しました



市長賞を受賞した「生家」。第二次世界大戦前的小名浜の漁業の様子を描いた作品

が、小名浜中坪にある実家と震災では幸い自宅は津波でした被害にもあわず無事でした

ふるさとの復興のために 私ができること

突然亡くなり、店の継続などの悩みを抱え、後ろ向きになってしまった時に「このまま落ち込んでいても仕方ない」と思って市長賞を受賞。「前を向いてがんばれ」という主人からのプレゼントだと思い、その頃から価値観が変わってきたんです。

突然亡くなり、店の継続などの悩みを抱え、後ろ向きになってしまった時に「このまま落ち込んでいても仕方ない」と思って市長賞を受賞。「前を向いてがんばれ」という主人からのプレゼントだと思い、その頃から価値観が変わってきたんです。



作品展には多くの人が訪ね、齋藤さんの作品を見ながらそれぞれの思いを語っていました

震災を乗り越え、今年9月には一日も早いふるさとの復興を願いながら仕上げた約40点の作品を展示した「愛しきものによせて」を開くことができました。

「少しでも多くの人に、当たり前の日々や風景を大切にする気持ちを感じ復興へつなげほしい」とふるさとの思いを胸に、生きがいである絵を描き続けています。

小名浜藝術の秋 Part1

Ena

10月20日、江名小学校で学習発表会が開かれました。

「最高の思い出作ろう発表会」のスローガンのもと、練習の成果を発揮し、いきいきと発表会に臨んでいました。

4年生は2部合奏で「もののけ姫」を演奏。方音楽祭で演奏した「この星に生まれて」も発表しました

3年生の劇「ほんとうの宝ものは」で各國自慢の宝物を紹介。大漁旗を紹介したエナーラ国は拍手喝采でした

6年生の劇「走れメロス」。セリヌンティウスと再会し、がっちり手を組み交わす劇のクライマックス

江名小・永崎小學習発表会

Nagasaki

同日、永崎小学校でも学習発表会が行われました。2年ぶりに母校での開催となり、子どもたちは「届けようぼくらの熱いこの思い」とスローガンを掲げ、学校に戻った喜びを全身で表現していました。

「フラガール」を演じた6年生。閉幕の言葉では、震災後支えてくれた地域の方々などへの感謝の気持ちを全員で伝えました

5年生51名が一丸となり、迫力のあるヨサコイを披露

2年生は、声を揃えて1学期に習った「スイミー」を読みました



四季折々の生け花で、来場者に癒しのひととき

小名浜公民館、小名浜市民会館で開催された市民文化祭。10月20、21日は展示の部、27、28日は芸能の部が開かれ、参加者は日頃のサークル、文化活動の成果を発表しました。

磐城地区総合市民文化祭

小名浜 芸術の秋

Part2



小名浜高校の吹奏楽部は夏のコンクールで金賞を受賞した「交響詩曲 西遊記」ほか2曲を演奏

日本舞踊若竹会小名浜サークルのメンバーは「しのび宿」を踊りました



有志発表では3年男子のバンドOuvrir(ウブリール)がロードオブメジャーの「大切なもの」などを演奏

11月2日、江名中学校の文化祭「たてやま祭」が小名浜市民会館で開催されました。

スローガンとシンボルマークが入ったビッグアートを背に、英語、国語の弁論や合唱コンクールが行われたほか、生徒たちの自主性の向上を図るために有志発表も行われ、3年生男子数名がロボットダンスとバンドの演奏を披露しました。生徒たちはシンボルマークよりも輝く笑顔で文化祭を楽しみました。



学校賞を受賞した3年1組。自由曲は「青い鳥」を歌い、きれいなハーモニーが会場に響き渡りました

小名浜4地区の堤防の高さが 海抜7.2mに決定

10月9日、海岸堤防(防潮の施設)に係る説明会が小名浜公民館で行われました。地区住民ら約100名が出席し、県・市の担当者が計画案や今後の都市計画手続きのスケジュールを説明しました。

計画案は、復興事業計画に基づき住民の生命を守ることを第一とし、数十年から百数十年の頻度で発生する津波として、明治三陸沖タイプの地震の津波や高潮時の潮位を考慮し設定。

市都市計画審議会、市復興整備協議会の協議を経て決定し、その後、速やかに事業認可に向けた手続きを進める予定となっています。

市都市計画の手続きについては、計画案が10月19日から11月2日まで縦覧され、11月2日まで縦覧され、

10月9日から21日にかけて、「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」が実施されました。

20日は、いわき平年金受給者協会小名浜支部の会員が三崎公園の清掃を行いました。

21日には、永崎地区の住民ら約200名が海岸駐車場や道路のゴミ拾いを行いました。「震災後もいわきに遊びに来てくれる人たちに、きれいで素敵なところだと思ってもらいたい」と参加者は清掃に汗を流しました。



参加した会員は「いわきの観光名所がにぎわうことが復興へ繋がる」と熱心に清掃



地区の住民が一丸となって取り組むことが、まちの復興への一歩と清掃活動に励みました

まちの話題

■中之作プロジェクト祭

古民家再生の進捗状況の発表、わらナワもじり大会・竹小舞づくり(土壁の下地)教室などを行う予定。

- 日時 11月25日(日) 13:00~16:30
- 会場 ラトブ6F産業創造館 企画展示ホール

■小名浜公民館、図書館休館のお知らせ

電気工事のため、12月6日から26日までの期間休館となります。

【公民館】ホールや会議室など館内施設の利用は不可。1、2月分館内施設利用予約の申し込みは窓口で受け付けています。

【図書館】ブックポストは利用可能。本の返却はブックポストをご利用ください。

■中之作朝市

組合加盟業者と協賛業者の加工品を直売します。

- 日時 12月22日(土) 7:00~10:00
- 会場 中之作魚市場

まちをきれいに

10月19日から21日にかけて、「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」が実施されました。

20日は、いわき平年金受給者協会小名浜支部の会員が三崎公園の清掃を行いました。

21日には、永崎地区の住民ら約200名が海岸駐車場や道路のゴミ拾いを行いました。「震災後もいわきに遊びに来てくれる人たちに、きれいで素敵なところだと思ってもらいたい」と参加者は清掃に汗を流しました。



参加した会員は「いわきの観光名所がにぎわうことが復興へ繋がる」と熱心に清掃



地区の住民が一丸となって取り組むことが、まちの復興への一歩と清掃活動に励みました

交 流 を 深 め よ う !

勿来駅前自治会の
取り組み



序盤に現れた勿来の関までの坂道を歩くみなさん。ベースダウンしてしまう人もちらほら…



空を見上げると、
飛行船が飛んで
いました



"アンサンブルさわやか"のみなさんが奏でる音色に合わせて、歌も披露されました

住民懇談会や、津波避難訓練などに積極的に参加し、地域全体の防災意識向上に取り組んでいる勿来駅前自治会。高齢者が多いこの地区では、震災時にどのようにすれば速やかに避難できるかが現在の課題となっています。「普段から地域住民の交流を図り、いざという時に協力して避難できることにすることが大切」と語る小沼裕一会長。同自治会では、地域住民のコミュニケーションを深める活動として、毎年、親睦レクリエーションを開催しています。

昨年は開催できませんでしたが、10月13日、勿来駅東、駅西1、同2の各地区360世

みんなで楽しく
ウォーキング

帶を対象に、ウォーキング大会と称した親睦レクリエーションが2年ぶりに開かれました。

当日は青空が広がり、絶好のウォーキング日和。集合場所となった関田西公園には、およそ100名が集まりました。まず、小沼会長が開会のあいさつをした後、音楽に合わせて準備体操を行い、いいよ出発。今回のコースは、関田西公園→勿来の関→勿来海岸→旧関田公民館前→関田西公園の約4kmの道のりです。

出発から約1時間半後、関田西公園にはぞくぞくとゴー

練などに積極的に参加し、地域全体の防災意識向上に取り組んでいる勿来駅前自治会。高齢者が多いこの地区では、震災時にどのようにすれば速やかに避難できるかが現在の課題となっています。「普段から地域住民の交流を図り、いざという時に協力して避難できることにすることが大切」と語る小沼裕一会長。同自治会では、地域住民のコミュニケーションを深める活動として、毎年、親睦レクリエーションを開催しています。

昨年は開催できませんでしたが、10月13日、勿来駅東、駅西1、同2の各地区360世

のウォーキング日和。集合場所となった関田西公園には、およそ100名が集まりました。まず、小沼会長が開会のあいさつをした後、音楽に合わせて準備体操を行い、いいよ出発。今回のコースは、関田西公園→勿来の関→勿来海岸→旧関田公民館前→関田西公園の約4kmの道のりです。

出発から約1時間半後、関田西公園にはぞくぞくとゴーとなりました。

当日は青空が広がり、絶好のウォーキング日和。集合場所となった関田西公園には、およそ100名が集まりました。まず、小沼会長が開会のあいさつをした後、音楽に合わせて準備体操を行い、いいよ出発。今回のコースは、関田西公園→勿来の関→勿来海岸→旧関田公民館前→関田西公園の約4kmの道のりです。

出発から約1時間半後、関田西公園にはぞくぞくとゴーとなりました。



暖かい日差しと、心地の良い潮風を楽しみながらのウォーキング

10月8日、植田駅前中央通りで、第28回うえだパティオ通り歩行者天国が開催されました。

さわやかな秋晴れの下、会場には約2万人が来場。勿来消防署によるハシゴ車の試乗会や、ミニSLには、大勢の子どもたちが集まりました。

また現在、東京藝術大学の副学長を務める植田町出身の彫刻家、北郷悟さんの作品「いざなぎ　いざなみ」が植田駅前広場に設置されたことから、除幕式を実施。渡辺敬夫市長をはじめとする多くの来賓が出席。「地元のみなさんを見守っていくであろうこの彫刻とともに、これからもいわきを応援していく」となりました。

「今後も住民のコミュニケー

ーション作りを大切にし、いざな

い」と、北郷さんはふるさとへ

エールを送りました。

そして「いざなぎ　いざな

み」をテーマにした記念パフ

オーマンスをプロの方が披露。



被災した岩間町を実際に目にしながら、津波の恐ろしさを体感する外国人学生のみなさん

被災地の現状を海外にも発信

10月23日、外務省の主催で行われた「キズナ強化プロジェクト」の一環として、岩間町に43名の外国人学生が訪れます。堤防は、数十年から百数十年の頻度で発生する津波を対象に設計津波の水位を設定し、海拔7・2mにかさ上げ。また、高潮や波浪に備えて、粘り強い

た。これは、外国人学生が被災地の現状を理解し、復興に向けて力強く取り組む人々の姿を学び、日本の魅力を海外に発信してもらうというもの。

キリバス共和国から22名、ツバルから21名の大学生と高校生が来市。太平洋に浮かぶ両国は、海面の上昇によって水没による被害に悩まされています。被災地の現状説明がなされ、岩間町の現状説明がなされ、



思いがけないプレゼントに笑顔がこぼれる
森区長。短い時間でしたが、絆を深め合いました

元気いっぱい！なこそびと

元気と笑顔で、愛され続ける青果店

植田町中央にあるタカハシフルーツ店は37年前の創業以来、地域住民に愛され続けています。

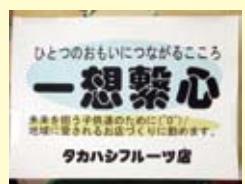
昨年、地震の被害を受けた建物は、今年5月から1階部分と外壁の修理を開始。その間も近くの仮店舗で営業を続けていましたが、7月9日元の場所での再オープンを果たしました。

オーナーの高橋洋史さんは「これからも地元で頑張り、地域に愛されるお店づくりに努めていきたい」と笑顔で話しています。



洋史さんと、母のアキ子さん。以前同様、たくさんの果物が描かれた看板が目印となっています

店内に飾られた1枚の紙。この言葉をモットーに、毎日頑張っているそうです



植田町中央1丁目15-8
営業時間 9:00~19:00
☎0246-63-3506

10月12日、植田公民館で海岸堤防に係る説明会が開かれました。勿来地区住民、およそ60名が参加。小浜地区約180m、岩間・佐糠地区約1、950m、錦町須賀地区約1、530m、関田地区約1、350mを対象に、堤防設置に係わる現時点での計画原案が説明されました。

堤防は、数十年から百数十年の頻度で発生する津波を対象に設計津波の水位を設定し、海拔7・2mにかさ上げ。また、高潮や波浪に備えて、粘り強い

勿来地区 海岸堤防に係る説明会

構造で設計されます。

今後の予定としては、11月中旬に市都市計画審議会を予定。11月下旬に市復興整備協議会への協議申し出を行い、12月中には都市計画の決定告示をする予定です。



ふるさと復興に向けて、住民からも様々な意見が上がりました

伊勢屋 リニューアルオープン！

創業47年になる、植田町本町の(有)伊勢屋商店は、灯油などの燃料販売や水まわり商品など、家庭のさまざまなライフラインを支え、地元に根ざしたお店です。

しかし昨年の震災で甚大な被害を受け、建物が大規模半壊となってしまいました。そのため、今年6月から解体作業を開始。近くの空き地に仮店舗を設置し、震災後も休まず営業を続けていましたが、10月に建て直しが完了。10月9日に、リニューアルオープンしました。

現在、植田商店会の会長も務めている鈴木修一郎社長は、震災後はガソリンがなかったため、自転車を購入してお客様の所まで行っていたそうです。「みんなの暮らしのお手伝いをすることが、私の役目。これからも、地域に根ざした商売をしていきたい」と熱い想いを話していました。



新店舗にも、以前と同様に奥様の恭子さんがデザインしたという、親しみのあるイラスト。2階は作品展示などにも利用できる、多目的スペースとなっています

植田商店会 事務所移転のお知らせ

植田商店会の事務所は、11月下旬に移転します。

旧 植田町中央1丁目12-1
新 植田町中央1丁目16

吉田家具店斜め前 旧パチンコ・ゲームセンターセブン跡

災害公営住宅が市内で初めて着工 常磐関船団地

市が計画を進めている災害公営住宅の建設工事がスタートしました。7地区16カ所に1,500戸を整備する計画となっており、10月29日は、市内で初めて常磐関船地区の災害公営住宅の起工式が同町の市営住宅関船団地内で行われました。市、県、施工業者ら約30人が出席し、工期の安全を祈願しました。

常磐関船地区の災害公営住宅は従来の市営住宅の敷地内に増築する形をとるため、用地取得や造成工事の手間がなく、市内で最も早い着工となりました。



起工式で、工事の安全を祈つて鍬入れする施工業者

延べ床面積は1,908平方メートル。鉄筋コンクリート造りの8階建て。3DK(3人以上世帯)、2DK(2人以下世帯)各16戸ずつ、計32戸を整備します。エレベーターなどは市営住宅内のものを共有できます。入居資格はいわき市民で、震災により住宅を失った方。

市住宅課によれば、平成25年2月末まで建物の基礎工事と建物本体の工事がスタート。26年3月に完成予定で、入居できる時期は同4月と見込まれています。約半年前の25年9月ごろから、入居申し込みが始まる予定。

他の地区に関しても今後も条件が整い次第、順次着工していく予定。同時に用地交渉も進め、早期の全地区着工を目指しています。

渡辺敬夫市長は「お待たせしてしまったが、ようやく復興の槌音を聞かせることができた。1日も早い生活再建に向けてさまざまな建築手法を検討しながら取り組んでいきたい」と話しました。



災害公営住宅の完成予想図

■災害公営住宅の建設計画

地区	住 所	戸数	入居開始時期
久之浜	久之浜町字久之浜	100戸	26年度当初
	調整中	40戸	26年度以降
四 倉	四倉町上仁井田	150戸	26年度当初
	豊間	190戸	25年度末
	薄磯	100戸	25年度末
	沼ノ内	40戸	25年度末
	作町	40戸	26年度中
平	調整中	50戸	26年度以降
	永崎	190戸	26年度中
	岩間町	50戸	26年度中
	錦町	70戸	26年度中
	勿来町関田	80戸	26年度中
勿 来	調整中	30戸	26年度以降
	関船団地	32戸	25年度末
	調整中	88戸	26年度以降
内 郷	雇用促進住宅	250戸	27年度中

自治会発足1周年 芋煮会で絆を深める

中央台高久第一応急仮設住宅で10月28日、自治会発足1周年を記念する芋煮会が開かれました。新妻美郎自治会長が、「自治会ができて1年、早いが遅いかはそれぞれだと思います。支援してくださっているみなさんへの気持ちを忘れずに、今日は楽しく過ごしましょう」とあいさつ。豚汁、フランクフルト、焼き芋、焼きそばなどが用意されました。

また、27日からいわきを訪問していた「ハワイ桜の女王」コンテストで選ばれた女性5名がフラダンスを披露。住民のみなさんもダンスに参加し、レイやパウスカートをプレゼントされ、とても和やかな会となりました。



小雨が降る中、第一集会所前で行われた芋煮会。テント内で食事を楽しむみなさん

生活支援相談員からメッセージ できることを精いっぱい!!

いわきのまちを「笑顔に!」
**ボラセン
だより**
No.7

私が生活支援相談員になって早1年半が経とうとしています。きっかけは、ボランティアからでした。

被災家屋の片付け、避難所訪問、仮設住宅訪問、交流会活動などを行い、被災された方々とふれあう中で「今自分ができることを精いっぱい頑張ろう!」と決意し、今に至ります。

私たちは、住民のみなさんを想い、毎日力を入れて活動しています。そして、今日も元気よく黄色い腕章を付けて皆さんに会いにいきます。



プロフィール
氏 名 北岡 裕理
担当地区 平
好きな動物 うさぎ・ヤギ

いわき市社会福祉協議会
いわき市復興支援ボランティアセンター
いわき市平字菱川町1番地の3
☎0246-38-6631
http://iwakisaiagavc.blog.fc2.com/



携帯電話の方は右記のQRコードからアクセスできます。

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

- メールの方／furusato@asally.co.jp
- 携帯電話からのメール
QRコードを読み取ってください。→
- FAXの方／☎0246-26-5157
- おたよりの方／下記編集室まで

いわきあいあい情報発信中!!

いわきあいあい 検索



いわき市 ふるさとだより 第18号

平成24年11月20日発行

- 発 行:いわき市
- 編 集:有限会社 いまあじゅ ふるさとだより編集室
- 編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3
プリンセス・アイ1F
Tel & Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp
http://www.furusatodayori.com

ふるさとからの お知らせ

久之浜・大久

●まちづくりコンサート

〈11月24日14:00～・久之浜公民館〉

◇新しい久之浜の歌のお披露目が行われます。

四 倉

●第10回大浦ふれあいウォーキング大会

〈11月25日9:00～・集合場所:大浦小学校校庭〉※受付は8:30～

◇コースは約8.3km。参加料は1人高校生以上300円、小中学生100円、幼児以下無料。大会当日の申し込みも可能ですが、傷害保険加入はできませんのでご了承ください。

■道の駅よつくら港キッズランドがオープン

〈入場無料〉

開館は10:00～17:00。第3火曜日定休。

平

●ふるさと豊間復興協議会後半ワーク

ショップ〈11月24、25日、12月9日14:00～、

小名浜

●中之作プロジェクト祭

〈11月25日13:00～・ラトブ6F産業創造会館企画展示ホール〉

◇古民家再生の進捗状況の発表、わらナワモじり大会、竹小舞づくり教室など。

●中之作復興祭朝市

〈12月22日7:00～・中之作漁港〉

勿 来

●植田商店会年末売り出しありがとう

セール〈12月1日～20日・植田商店会〉

◇商店会のお買い物券や、湯入泉券などが当たる抽選会は、植田商店会新事務所にて12月12～21日(10:00～16:00)の間に行われます。1日から発行される補助券10枚で、1回の抽選が可能です。